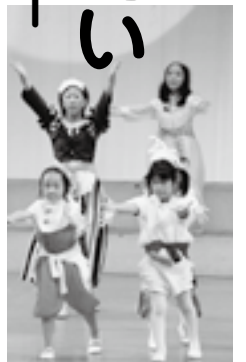


子どもたちの笑顔を

「ずっ」と守り続けたい —庄原子どもミュージカル—



「子どもたちの笑顔を取り戻したい」。その思いを持った市民17人の手によって誕生した庄原子どもミュージカル。今年13回目となる年に1度の公演が今年21日(日)、庄原市民会館で行われます。この公演に向け、71人の子どもたちと実行委員は5月から週に1度の練習を積み重ねています。その活動と活動に込められた実行委員の思いを紹介します。

子どもたちの笑顔のために

平成10年頃、いじめ、不登校、自殺、そして下校途中の小学生が殺害される悲しい出来事が市内で相次ぎました。子どもたちの笑顔は失われ、町中が沈む中、「これではいけない」という熱い思い持つ市民が、平成12年春に実行委員会を立ち上げました。

変わり始めた子どもたち

最初は手探りでスタート。企画や準備、資金集めなどは実行委員が担当し、ミュージカルの脚本や演出は、ミュージカル広場代表の増田明さん(大阪市)に依頼しました。スタッフ6人が大阪・庄原間を往復し、指導をサポート。

舞台で笑顔がはじける

練習では、「ボディートーク」という手法で子どもたちの心と体をほぐします。この練習で、子どもたちの表情が明るくなり、歌、演技、踊りを素直に表現するようになりました。その変化は保護者の皆さんの多くが感じていました。

子どもたちは本番を迎える頃には自分を伸び伸びと表現。元気いっぱい飛び跳ねる子どもたちに、「逆に元気をもらっている」と実行委員は話します。広島東洋カープの支援も力になっています。今年も8月にマツダスタジアムで思い切りパフォーマンスを行い、大入りの観客前で笑顔がはじけました。「心を一つにした貴重な体験ができた。今年の公演に生きると思う」と喜びを語ります。

資金不足 求められる支援

しかし、資金面では当初から不安がありました。運営費年間約500万円は、参加者負担金、チケット代、企業協賛金などで

インタビュー



実行委員長
児玉 節さん

庄原市の誇り

子どもミュージカルでは、自分を一杯表現することを練習の中で身に付けます。今、自分を抑えて過ごしている子どもが多く、自分の表現ができずに大きくなっている現状があります。ミュージカルに参加した子は、自分に自信を持てるようになってきています。そして、自分が頑張ったという積み重ねがあつて子どもは

支えられています。今年も独立行政法人の助成金がなくなり、来年の公演が厳しい状況だといえます。「子どもた

ちの居場所と夢、笑顔を守り続けたい」。そのためには、地域の温かい支援が求められます。

成長するのです。発達障害の子どもも受け入れていきます。すぐ伸びて、自分で輪の中に入りみんなに負けないように踊れるようになりましょう。そういう子どもたちの成長が見られるこのミュージカルは、誇れるものだと思います。市民の皆さんには、大切なものを慈しむようにこれからも育てていただきたい。そうすれば、もつと庄原の誇れるものになると思います。

ただ、運営は厳しいです。経費をぎりぎりまで絞り、今回ショッピングセンターなどで募金をお願いするなど努力していますが、本当に厳しい。とにかく皆さんはこのミュージカルを一度見ていただきたいです。ご覧になれば元気になる温かい気持ちにきつくなります。今年も、10月21日、当日チケットもありますので、子どもたちの笑顔にぜひ会いに来てください。



昨年公演した「白雪姫」の一場面

庄原子どもミュージカルを見に行こう！ 第13回公演 オズの魔法使い

と き 10月21日(日)
第1公演/13:30～15:00(開場 13:00)
第2公演/16:00～17:30(開場 15:30)
ところ 庄原市民会館
入場料 小学生以上 1,000円(全席自由)
問い合わせ 庄原子どもミュージカル実行委員会
☎ 090-2006-6982